



みんなの力でみんなの幸せを

s a w a r a b i

さわらび

2

医学
講話

感染防御 ～はじめに自然免疫ありき～

◆老人保健施設ジュゲム 施設長・東京大学客員研究員 金井 芳之

8

特集

第9回 福祉村サミット in豊橋

2009
vol.440

12





医学講話

感染防御

〈はじめに自然免疫ありき〉

老人保健施設ジユゲム 施設長
東京大学客員研究員

金井芳之

地球温暖化により微生物界にも大きな異変が起きている。20世紀の後半からエイズ、C型肝炎、西ナイル熱、ラッサ熱、そしてサースなどの所謂「新興感染症」や古くからあったジフテリア、百日咳、デング熱、マラリア、ペストなどの「再興感染症」もそれと無関係とは言えないであろう。当面世の中を賑しているのが新型インフルエンザ（以下フルと省略）であるが、これも地球温暖化と無関係ではなさそうである。「フル」は昔からあったと思われるが、フルの第一号は1918年に全世界に広がり（これをパンデミックと呼ぶ）、数千万人もの死者を出した所

謂スペインかぜで、当時はその原因がウイルスであるとは分からなかった。その後、「かぜ」と扱われた。その後の死体や標本の分析から、それがウイルスによることが判明した。スペインかぜの感染力があまりにも強力、つまり英語では「influenza」であったことからインフルエンザウイルスと命名されたと小生は理解している。

染の増加は小児に著しいが、小生にはまだパンデミックの感は無。現在、わが国はワクチン接種で悪戦苦闘しているが、医療の実態の把握が不十分である。分配するワクチンの容器を1ccにするか、将又5ccか10ccか、安全性と経済性を巡って与野党で攻防している始末である。これなど現場通の医師の助言で容易に解決しうる問題である。新型フルワクチン対策については4月の段階で着手していれば、現状の不足は少しは緩和されていたであろう。

ここでワクチンの生い立ちに少し触れてみよう。その発端は約200年前ジエンナーによって開発された牛痘（牛の天然痘）ワクチンで、極めて粗末なものであったが、ヒト天然痘の発症を抑制していたようである。この辺りから疫病を予防するということが「免疫」という言葉が定着してきた。古くは紀元前四百年頃、カルタゴ軍が地中海のシシリア島に侵入し、シラクサ軍と交戦した時ペストが大流行して停戦になった。カルタゴ軍は新鋭部隊を編成しシラクサと再戦、シラクサ軍は既存の部隊で戦った。再びペストが流行し、カルタゴの新鋭部隊は惨敗したのである。一方の古いままの戦力で戦ったシラクサの兵士達にはペストに対する抵抗力が出来ていたのでその難を免れたのである。これが歴史上最初の「免疫」の登場である。

思われる。つまり感染症全体を通じて、その予防対策が混乱したか、或いはワクチンの開発が著しく進歩したかのどちらかであろう。

同一の感染症に二度罹らないのは、現在では「細胞性免疫」と「液性免疫」が成立したと説明される。具体的には前者が感染細胞に直接作用し、病原体ともどもそれを破壊するキラーT細胞がメモリーとして永続すること、そして後者は血中に流出する抗体を産生するメモリーB細胞が誘導され、リアルタイムに感染防御抗体を産生出来る状態にあることを意味する。従ってワクチンには予想される侵入病原体に対するメモリーT細胞やメモリーB細胞を予め産生させる機能が備わっていないならばならない。完全マッチでなくても交叉反応レベルでもよい。感染免疫には「交叉反応」というメリットがあり、病原体に著しい変異が起きなければワクチンが完璧でなくても発症抑制又は症状を軽減する効果が期待できる。

このことは今度の新型フルにも当てはまり、正確ではないが、65歳以上のヒトは感染しても普段健康であれば軽症で済むとも云われている。小児の発症が多いのは交叉反応がないからだと想像される。このような交叉反応だけで解決出来るにこしたことはないが、天然痘などとは違って、フルは変幻自在に型を変えるので、それに対応するワクチン産生が必要となる。今期のフル騒動が鎮火してもまた来期を憂えなければならない。

感染防御には前述の二度なしの病気に象徴される所謂「獲得免疫」の他に、生来備わっている「自然免疫」がある。変幻自在に変貌するフルにはワクチン効果を増強する自然免疫の強化策が今こそ望まれる。自然免疫とは新たな病原体侵入に対する獲得免疫が成立するまで働き続ける生体防御機構のことである。思えば四十年前程前、外科総論で習った『炎症』の定義つまり「発赤」「腫脹」「熱感」「疼痛」という用語に自然免疫

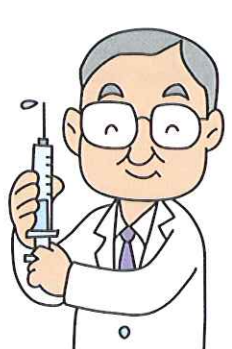
の全てが表現されていたのである。外科から発せられた用語であるから、その対象は自ずと外傷に伴うものであったであろうが、自然免疫こそ「炎症」の“超ミクロ版”であったのだ。近年の分子生物学の進展で病気の発症機序が所謂「受容体」を介した情報伝達の異常であることが次々に明らかにされるにつれて、炎症

の“超ミクロ版”つまり自然免疫もツールライクレセプター (Toll-like Receptor) (TLR) という受容体を介して作動されることが明らかにされた。TLRには遺伝子の違いから11種類が存在し、各々外来侵入物に対する担当が割り当てられていて、そこからの信号(種々のサイトカイン)が、キラー細胞や抗体産生B細胞を強化する。これらが適切に行われると感染防御が成立するが、それが過剰に働くと関節リウマチやその他のリウマチ性疾患と云うような難治性自己免疫疾患の発症にも繋がる。その点で自然免疫の主役TLRは諸

刃の剣でもある。フルに感染して発熱することはTLRが作動していることを示し、いたずらな発熱は治癒を遅らせることになる。反対に瞬時の過剰反応はサイトカインストームと云われ、死に至る危険もある。

本邦では新型フルワクチンにアジュバントを添加するか否か、問題になっているが、このアジュバントこそTLRを介した自然免疫を強化する手法の一つで、世界レベルではアジュバントが既にがんの免疫療法にも積極的に導入されている。本稿では少し話を簡素化したしたが、次回でもこのTLRを介した自然免疫とアジュバントについて解説できたらと思っている。

参考文献
Scientific American, October 2009; ibid, January, 2005



HANPMの遺伝子で作成したワクチンをマウスに免疫する。次に同じA/PR/8を感染させるとマウスは100%生存した。しかし現在使用されているワクチンと同じようにして作製した不活化ワクチンではあまり強い感染抵抗性を付与する事が出来なかった。一方A/Guizhou-Xと全く新しい型のウイルスを感染させても我々の作製したワクチンを免疫したマウスは100%生存することが分かった。不活化ワクチンでは新しい型のインフルエンザに対して全く感染抵抗性を付与する事が出来なかった。

現在、我々のワクチンは新型を始め多くのインフルエンザなどにも極めて有効であることが確認されつつあるが、その他、新しく出現してくる鳥型インフルエンザなどにも有効であることをインドネシア感染研究所の人や京都府立大学の塚本康浩教授らと共同研究をいくつかある。今後種々の安全性試験を行って、安全であることが判明すれば、毎年新しいインフルエンザワクチンを開発し

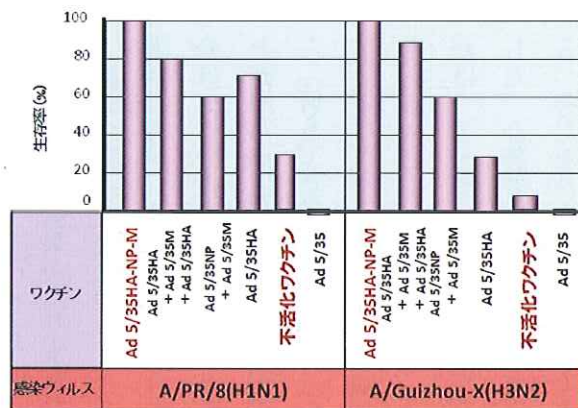


図3 新型Ad5/35 HA, NP, M2ワクチン免疫による各種インフルエンザに対する感染予防効果



なくても良いことになり、多くの医療従事者や利用者などにも使用出来、極めて有効なワクチンが作製されると思っている。

珠藻荘と医療ケアホームの方々の交流会

福祉村の中にある職員宿舎「レジ

デンスなま」の1階に重度の障害を持った方が暮らす医療ケアホームがあり、十月十八日に珠藻荘自治会の方と「見学&交流会」を行いました。

珠藻荘の利用者にとつての大きな目標でもある、「地域生活」を身近に感じたい、また、高齢と共に医療的なニーズの発生が予想されるため、今回、「是非、見学をしてみたい。」との声が要望となり自治会主催で見学と交流会が実現しました。

見学はやはり環境面での整備についての関心が高く、トイレ、浴室の高さなど、実際に自分たちの生活を想定した質問をされていました。また、介護の時間や、職員の勤務時間などを真剣なまなざしで聞いていました。

交流会では和やかな雰囲気の中、お互いの生活について、良い点悪い点などの意見交換がされていました。最後には同じ障害を持つ同士と

いう点で意見がまとまり将来の希望や夢などにまで話が拡がり、とても有意義で楽しい一時を過ごすことが出来たようです。

最後に、今回の見学&交流会を通して、参加された珠藻荘の利用者は実際の地域生活のスタイルの一つに触れたことにより「地域」をより一層、身近に感じ、そして地域生活を現実のものとして捉えることが出来た、意義のある交流会となったと思います。

また、医療ケアホームの方々と行事等への参加への呼びかけを行い、地域、施設の枠を超えて交流を行ってゆきたいと思えます。(田中)



●職員の話を中心に聞く珠藻荘の利用者

家族介護者交流会

認知症の方の
自動車運転

今年七月に、地域で認知症の方を介護する家族の交流会を行いましたところ、参加者の多くから、「認知症の方の運転について困っている、又は困ったことがある」という話が出ました。これを受けて十月三十一日（土）に、ユタカ自動車学校の加藤伸英氏を講師に迎え、二回目の家族介護者交流会を行いました。

講師の体験談を皮切りに、「認知症の方の運転について」の講話と、高齢者講習や講習予備検査のご説明を頂きました。講習予備検査とは、現在の認知機能や運転状態を知っていただく検査であり、運転免許証を取り上げる目的ではないとのことでした。



また、認知症の方の運転の制限については、急に制限するのではなく、まず視界の悪い薄暗い時間や夜は止めて、昼間運転するように促す。その後、雨の日は見えにくいので晴れた日に運転するなど、段階を経て運転を見直すと良いのではないかと、といった方法の提案がありました。

講話の後の交流会の中で、ある介護者の方が、認知症のご本人が「自分は何もできなくなった」と嘆くことがつらいと言われ、他の参加者から「何もできなくなった訳ではない。若い頃ほど速く走れないのと同じで、考えるスピードがゆっくりになっただけ」とお話しされる場面がありました。介護者同士だから分かり合える、そんなひと時を過ごして頂きました。
(松下)

中央競馬馬主社会福祉財団からの 助成金が決定

しろがね利用者の方々の重要な移動手段としての車両の1台が、来春には使用できなくなり、それに替わる大型車両（リフト付き・車椅子4台、16名定員）購入のために、助成金が、右記財団より頂けることが決定し、11月4日、その目録贈呈式が名古屋アイリス愛知で行われました。

贈呈式には、役員の方の森みのり氏が出席し、中央競馬馬主協会、永井会長より目録が贈られました。

(石黒)



渋谷区議会議員「白珠」視察

11月6日（金）東京都渋谷区より、区議会議員9名の方々が、豊橋市における高齢者福祉・介護保険事業計画の評価と今後の課題に関して豊橋市と情報交換を行い、その一環として「グループホーム白珠」を視察されました。

議員の皆様は玄関に入られた際の、一般的なグループホームのイメージとは異なる、明るく華やかな雰囲気に関心されておりました。

その後、山本ゆかり専務理事と職員から「白珠」の概要説明を受け、お部屋などを見学されました。見学中、議員の皆様は熱心に質問され、今回の視察を有意義に終わられました。
(渡邊)



さわらび レポ ート 大学

2009年10月22日講義

「感染症について」

(インフルエンザなど)

◎講師：さわらび会 福祉村病院 院長

小橋 修先生

これまで少なかった北海道や愛知県で、新型インフルエンザが大流行しています。アメリカでも同様で、10〜20%の人が発病し、およそ住民の40%が抵抗力を持つようになると流行が収まるが、今度はそれまで流行が少なかつたところで爆発的な流行が起こっています。感染し発病する人もいれば、感染しても発病しない人がいるのが感染症の特徴です。インフルエンザも例外ではありません。

せん。

マスク・手洗い・うがいでインフルエンザウイルスの感染を防げますか？**答えはノーです。**ではどの程度防げますか？ウイルスで汚染された物に手で触れた場合は31%、ウイルスを含む微粒子を吸入した場合は17%、咳による飛沫が至近距離で眼、鼻孔、口に接触した場合は52%のヒトが感染するといわれています。

インフルエンザ感染はワクチンで防げますか？答えはノーです。ワクチンをした方が、発病は6割がた減少する、入院も半減する、死亡も五分の一に減少することは、国内外の統計の示すところです。もちろんワクチン接種の効果は、若者の方がよく、高齢ほど免疫はできにくいことも事実です。

さて、新型インフルエンザにかかったら自宅待機をするように指導されており、発病者は必ずきちんと薬を飲まなければならない。自宅療養で気をつけなければならない一番大切なことは、**入院治療が必要となる危**

険信号を見逃さないことです。子供

の場合には、呼吸速迫、呼吸困難、注意力消失、起き上がれない、いつもと違って遊びたくない、遊ぼうとしないなどの症状は危険信号です。大人であれば、息切れ（動いたとき、安静時）、呼吸困難、呼吸のしにくさ、血性の痰、胸痛、意識の障害、3日以上続く高熱、血圧の低下など

どれかひとつでもあればすぐに呼吸管理のできる病院を受診することです。救急車を使うときは新型インフルエンザで重症化しそうですと告げることが大切です。**高齢者の場合には重症化していてもはっきりした症状を訴えないので、いつもより元気がない・食欲がない・うとうとする・微熱が続くといった、たいしたことはないと思われる症状でも重症化していることがあるので、受診をして早期発見・早期治療しましょう。**

一般に、感染症を予防する一番よい方法は**ワクチン**ですが、**ワクチンのない感染症の方が圧倒的に多く存**

在しますので、栄養、適度の運動と

十分な休息、十分な睡眠で、どのような感染症にも負けない抵抗力を最大に保つように心がけましょう。「治療できない病気は多いが、看護できない病気はほとんどない」。病気の治療において、クスリはその三分の一を受け持ち、三分の一は、24時間接している介護者との信頼関係、残り三分の一は、周囲の人々や地域の支えの三拍子がそろってはじめてよい状態を作ることができます。認知症で周辺症状の強い方たちを、困った、困ったと避けるのではなく、無条件に支え、一緒に楽しく演技をする気持ちで介護をすることが大切です。

病気の治療は病院に任せ、高齢者の生きがいを損なわず、生き生き人生を送れるようにサポートしましょう。



第9回 福祉村サミット

◆平成21年11月19日(木)～20日(金)開催

「福祉村だからできる福祉サービス」のさらなる充実をめざして



複数種別の福祉施設と病院を運営する大規模民間社会福祉法人・医療法人が、共通する運営課題や、法人の今後のありかたについて意見を交わし、地域の皆様の幸せの実現をめざします。

さわらび会の提唱により平成十三年に始まった福祉村サミットはその後毎年開催となり、北海道から鳥取県まで全国をめぐる中、参加法人、規模も拡大し、また討議内容もより高度なものとして成長をしてきました。そしてその「福祉村サミット」が第九回の今回、再び豊橋に戻って来ました。



今大会はホテルアソシア豊橋を会場に十六法人 七十三名の皆様が集まり過去最大規模の福祉村サミットとして熱気ある大会となりました。

開会にあたり主催法人を代表してさわらび会山本孝之理事長より「みんなの力でみんなの幸せを」というさわらび会の理念、そしてその理念を実現する様々な取り組みの様子を交えながら福祉村サミットの開催意義についての解説が行われました。そして最後に「今回のサミットが実現するものになるようにしてゆきましよう。」という開会挨拶により福祉村サミットは始まりました。

【第一日目開催報告】

1 講演 「変化する地域社会とセーフティーネット」

厚生労働省老健局 課長補佐 千田 透氏

急速に高齢化が進む社会、そして

ワーキングプア、ネットカフェ難民

の出現による格差社会。このような

社会情勢の変化の中、地域社会にお

いては「地域の連帯感希薄化」「制

度では拾いきれないニーズ、制度の

谷間にある者への対応」など多様な

福祉課題が出現しています。そしてこのような情勢の中、地域における「新たな支え合い」（共助）という事が求められています。

高齢者・障害者がいつまでも安心して暮らし続けることができる社会の実現にむけて、その中心的役割を担うのが社会福祉法人です。そして社会福祉法人自身も今後は、地域を意識した独自のサービス、システムの構築や、多様なサービスの担い手を地域で創造・育成・連携等を行う新しいコミュニティづくりを行う責任を有しています。

千田課長補佐の講演はまさにさわらび会がめざすものであり、福祉村サミットの開催意義そのものであるご講演を頂きました。



2 講演

「新しい認知症の

医療とケア」

国立長寿医療センター 包括診療部長

遠藤 英俊氏



高齢化社会の中でも大きな課題となつている認知症について、その新しい医療の考え方、そして診断技術の向上に関する研究の最新の情報、そして若年性認知症に対する課題、対策についてデータ、スライドを用いてわかりやすく解説頂いたあと、ケアマネ・ヘルパーのケアの格差が大きいことや、認知症ケアの標準化及び、研修ができていないこと等、認知症ケアの課題についてお話をさせて頂きました。

そして認知症のお年寄りがその人らしく暮らせるように、一人ひとり

のニーズと気持ちに合わせた援助方法である「パーソンセンタードケア」の理念について。また、認知症のお

年寄りの行動を六時間にわたって観察し、五分ごとに行動を記録しそれぞれについて良い状態か悪い状態かを数値で表し、地図を作るように表を作成し適切な援助方法を検討する「認知症ケアマッピング (DCM)」の導入方法や効果について解説を頂きました。

第一日目の日程終了後は懇親会が開催され佐原光一豊橋市長も来賓としてご出席頂き、祝辞を頂きました。また、懇親会はなごやかな雰囲気の中、法人相互の活発な情報交換の場となりました。



【第二日目開催報告】

サミット二日目は「福祉村だからこそできる福祉サービス」をテーマにさわらび会を含めた四法人より実践報告を頂きました。

◆実践報告発表

「継続的に経営基盤を

維持するための事業展開」

長岡福祉協会 桜花園園長

片野 勉氏

「私らしくあるために」

天竜厚生会サービス事業部

サービスセンター主任

松井加奈氏

「旭川荘におけるスポーツ・

芸術文化活動」

旭川荘 竜ノ口寮寮長

樫野秀基氏

「医療と福祉の連携 世代と障害

の種別を越えた支援」

さわらび会

若菜荘施設長

武田 和敏

珠藻荘副施設長

田中 力

四法人より発表された報告はどの報告も充実した内容で、法人の今後のありかたについて大いに参考にな

るものばかりだったのでないでしょうか。

さわらび会からは「みんなの力でみんなの幸せを」という理念を実現するため、「自立」「就労」「創作活動」等において世代と障害の種別を越えた交流の様子。また大規模震災発生時において地域の一般避難所では生活できない認知症のお年寄りや障害をお持ちの方が安心して福祉村を避難所として利用して頂くための様々な取り組みの様子。そしてさわらび会を中心した支援ネットワークである「高齢者担当会議」「障害者担当会議」「在宅医療福祉部会」それぞれの活動及びこれら三部会の相互の連携について実際の事例を交えながらスライドで報告させて頂きました。

今回のサミットで改めて、この地域におけるさわらび会の大きな役割や進むべき道を再確認できた実りある福祉村サミットが開催されました。

(江川)

GTレース最終戦

10月17・18日にドイツのオックスラーズレーベンにてGT Mastersの第7戦(最終戦)が開催された。

10月のドイツは、日本よりも寒く日中でも10℃くらい、夜間には0℃近くまで気温が下がる。

そのような気候の中開催された、17日の予選とレース1では、天気が雨のウェットコンディション。左近選手のドライブするアウディR8 Lmsはフロントタイヤが温まりにくいため、路面温度が上がらない状況では本来の走りができず、フラストレーションのたまるレース展開となった。

それでも、迎えたレース1では、パートナーの予選結果でスタートグリッドが決定されるため、19番手からのスタートとなったが、左近選手の懸命の走りにより14番手まで順位を上げてフィニッシュした。

翌18日は天候も回復し、ドライタイヤコンディションでレース2を迎える。

14番手からスタートした左近選手は今シーズンを締めくくりにふさわしい怒濤の走りで、次々と前の車をオーバートイク。圧倒的なパフォーマンスで8台を抜き、順位を6位にまで押し上げパートナーと交代した。その走りは、今年のGP2アジアシリーズ最終戦のバーレーンGPを思い起こさせる、華麗なオーバートイクショーだった。そして、その果敢に攻める走りは、観客を魅了し、周りにいた関係者を唸らせるのに十分だった。

レース後に左近選手も「久しぶりに自分のドライビングができて、気持ちの良い最終戦を終えることができた。」と振り返っているように、本人にとっても満足のいく走りであった。

今シーズンのレース活動は、これで一旦お休みとなる。今シーズンは、新たに参戦した



魅せた!!左近の力

今年から参戦したGT Mastersも最終戦をむかえた。
有終の美を飾るべく、トップレーサーとしての走りを存分に発揮してくれた!

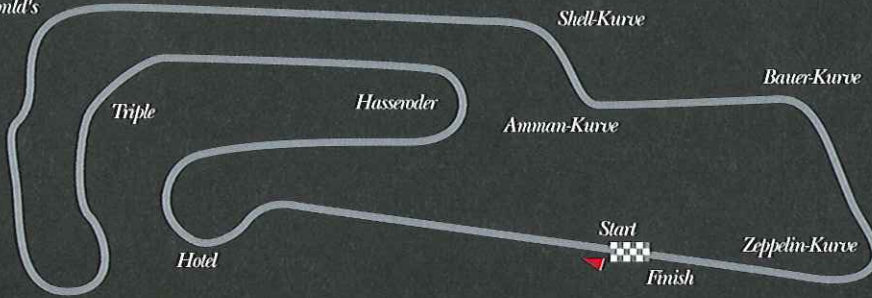
GT Mastersにおいて主にレースを繰り広げたが、二人一組で走るという独特なレーススタイルであったり、度重なるマシントラブルに見舞われたり、なかなか左近選手自身の力をフルに出し切れない場面が続いていた。しかし、最終戦になってしっかりと本領を発揮するあたりは、やはり一流ドライバーのなせる技である。

数々の苦難を越えて一段とドライビングパフォーマンスに磨きがかかってきた左近選手。来期からの、その走りに大いに期待せずにはいられない最終戦となった！

(鳥居)

Oschersleben

McDonald's



【オッシャースレーベン】
(Motorsport Arena Oschersleben, モートルシュホルト・アリーナ・オッシャースレーベン)

ドイツ、マグデブルク近郊のオッシャースレーベンにあるサーキット。

ニュルブルクリンク、ホッケンハイムリンクに次ぐドイツ第3の常設サーキットとして1997年に完成。一周は3,667m。ドイツツーリングカー選手権(DTM)の開催地のひとつ。



協成子
 香に酔いて
 村静か

芳之

俳句浪漫

直筆の書で
季節を彩る

ジュゲム施設長・東京大学客員研究員
金井 芳之



流感も

香に酔いて

村静か

中世にヨーロッパでペストが蔓延した際、ハーブオイル（つまり当世のアロマオイル）の商人達は難を逃れたと言う。そこでジュゲムの5階のフロアーを使い、ハーブオイルカクテルの空中浮遊菌抑制効果を、夜間帯を用いて調べた。詳細は科学誌に譲るとして、具体的には、3リットルの水にオイルを0.03%加え、加湿器で蒸発させ、培地に落下したコロナー数を対照と比べてみた。その結果、70%の抑制効果が認められた。反復実験で再現性がみられ、それに関与する化学物質も明らかになった。夜間のナースセンターは心地よい香りに包まれるという効用も得られた。その実験過程でた

またまノロウイルス感染症が十七例発症したが、実験をした5階からの発症は無かった。ちなみにインフルエンザの発症も皆無であった。なお、空中に蒸散されるハーブオイルの濃度は5階フロアー全体で計算すると、概略一億分の一、安価、安全性からも、この冬はジュゲムの要所要所にそれを導入することにした。気分良く、安寧を祈念した一句でもある。

福祉村保育園だより

日本でもここ数年で定着してきたハロウィン。保育園でも十月二十日にハロウィンパーティーをしました。子ども達は事前に仮装の準備やカボチャのランプのお菓子入れ作りなどの用意を進め、当日を心待ちにしていました。自慢の衣装に着替えいざパーティーへ！「トリックオアトリート」「ハッピーハロウィン」のかけ声が飛び交い、みんなで作ったおもちゃのお菓子をあげたりもちゃたりして楽しい時を過ごしました。

(杉浦)



●お菓子いっぱいもらったよ

いかり先生の
お遍路さん
 四国八十八ヶ所霊場のめぐり
 第41回
 ●ひとりで生れ、ひとりで死ぬ
 福祉村病院副院長 伊莉 弘之

第四十九番浄土寺から第五十番東山繁多寺へは二キロ弱で徒歩三〇分、車で五分程度だ。繁多寺は淡路山という丘陵の中腹にある。山門は小さいが後ろを振り返ると松山市内から瀬戸内海まで見渡せる。地元では「畑寺」と呼ばれている。

山門をくぐり石段を登ると広い境内が開けた。正面には本堂が見える。数人参拝している人がいたが、頭に黄色いタオルをまいた歩き遍路装束の二十歳前後の男性は見当たらなかった。タイムリングとしては前の寺からここに来れば丁度出会うように思えたがいなかった。「あのおにいさんいいね。」と娘たち。「今までがタイムリングが良すぎたんじゃないの」と妻。

繁多寺は時宗の開祖である一遍上人ゆかりの寺でもある。彼は鎌倉時代の僧で、空也上人を先



達と尊信し念仏を唱えて全国を歩き「捨聖」と呼ばれた。この一遍上人が十四歳の時に修業をした寺である。

一遍上人は伊予の名門河野一族の河野通広の次男として道後で生まれ、十三歳で出家して二十五歳の時に念仏布教の旅に出た。「生ぜしもひとりなり、死するもひとりなり」という言葉を残した。



この寺は境内が広々として清々しい。一三九四年に京都泉湧寺の快翁和尚が住職となった後、高僧が相次いで住職となった。一六八一年には龍湖という名僧が住職となり、徳川幕府の帰依を受け寺運は隆盛になり六十六坊と末寺百余という大寺だったと伝えられる。自然の中に広大な境内があるのは過去の遺産なのだろう。

「あのおにいさんは、どうしたのかなあ」と中二の娘。「スピード上げて先に行ったのじゃない」と私。「次の寺に早く行こうよ」と小四の娘。「もう会えないのじゃないかな」と母。その時は普通の家族の会話に思えたが、とても淋しい気持ちになった。その理由は、この数か寺訪れる寺ごとに会えた若い元気な若者に突然会えなくなったせいだと思っていた。しかし、本当の理由は私が死んだ父にもう二度と会えないとその時に感じたからだだったのかもしれない。

Vol. 23
 relay column
さわらび会
 のわ

さわらび地域包括支援センター保健師
 松下 美津枝



今ぐらいの季節になりますと、故郷の長野では氷が張り、寒い地方ならではの楽しみが始まります。私が小学生の頃は、テレビゲームが一般的な遊びではありませんでしたので、冬はよくスケートをしていました。

休みの日の早朝はいつも友達と一緒に、近くの田んぼに作られた子供向けのリンクに行きました。スケート靴に履き替えるにも手がかじかんで、靴ひもを結ぶのに一苦労しましたが、リンクを3周もすると体もだんだんと温まってきました。そのうちにお日様が昇り、氷が少し解けだしてもなかなか帰らないほど、夢中で滑っていました。冬の体育の授業でもスケートが行われていましたし、締めくくりのスケート大会では、お弁当を持って近くの湖に行く、冬の一大イベントでした。

今は年一回子どもとスケートに行くくらいですが、陸の上ではかなくなってきた子どもの足に、氷の上なら追いつけることにささやかな喜びを感じます。

次回は、福祉村病院薬局長 高橋邦彰さんです。

◆福祉村病院・シユケム

- 10月16日 病院幹部会(理事長出席)
鶴沼の輪にんじん会議主催の講演会(各務原市中央ライフデザインセンター)にて伊弉弘之副院長が「認知症ケアのレベルアップ」について講演(響くケア)について講演
- 19日 臨時施設長会議(シユケム)に理事長出席
- 21日 医療安全委員会
- 22日 さわらび大学「感染症について」(インフルエンザなど)小橋修院長
- 27日 豊橋市社会福祉協議会主催の認知症座談会(生活家庭館)にて伊弉弘之副院長が助言
- 29日 豊橋市キヤラバンメイト養成研修会(豊橋市役所)にて伊弉弘之副院長が講義
- 30日 感染対策委員会
橋詰先生によるCPC(理事長出席)
早蕨編集会議(理事長出席)
豊橋市保健所による医療監査

◆第二さわらび荘・カサデローザ

- 11月2日 名古屋市緑保健所主催の認知症うつ予防教室(名古屋市中緑保健所)にて伊弉弘之副院長が「認知症の予防」について講演
- 4日 職員親睦ソフトバレーボール大会に理事長出席
- 6日 日総研主催の公開セミナー「(MYヒル)にて伊弉弘之副院長が「認知症ケアマスター」について講義
- 7日 新城市および新城市社会福祉協議会主催の認知症講演会(新城文化会館)にて伊弉弘之副院長が「認知症の早期発見のポイント」について講演
- 10日 病院長幹部会(理事長出席)
- 12日 名古屋社会福祉協議会主催の名古屋市居宅介護サービス事業開設者研修会(名古屋社会福祉協議会)にて伊弉弘之副院長が「認知症の医学的理解と認知症のケアのあり方について」講義

◆さわらび荘

- 10月16日 介護保険施設労働者支援事業施設説明会(施設長 岡崎)
- 19日 包括支援センター打ち合わせ(松下 勝山 市役所)
保健所衛生視察
- 20日 職種別領域ケア会議(勝山 つつじが丘)
- 22日 認知症サポーター養成講座講師(柴田)

◆珠藻荘

- 10月16日 二川中学校福祉体験学習(3名)
- 18日 あかね荘医療ケアホーム見学(利用者7名参加)
- 19日 家族会役員会
- 20日 豊橋市障害者自立支援協議会(施設長 市役所)
- 23日 愛知県サポーター管理責任者研修会(合同講義)

◆若菜荘

- 10月16日 二川中学校福祉体験学習(3名)
- 26日 全老協軽費ケアハウスセミナー(施設長・水野 横浜)27日 誕生会
- 27日 各階別会議
- 4日 若菜会役員会
- 6日 若菜会地域活動日
- 9日 食生活会議
- 11日 全老協推進委員会(施設長 東京)
- 12日 県老協協議員研修(山口 名古屋)
- 11日 21世紀委員会(施設長 東京)
- 11日 全老協東海北陸ブロック職員研修会(施設長・坂牧 金沢)13日

◆あかね荘

- 10月16日 誕生会
- 18日 二川中学校福祉体験学習(3名)
- 19日 珠藻荘利用者見学受け入れ(医療ケアホーム)
- 23日 健康診断(23日)
- 26日 サポーター管理責任者研修(朝倉 名古屋)
- 27日 焼き芋大会
- 30日 福祉村サミット打ち合わせ(施設長・中陳 ホテルアソシア)
- 11月2日 来訪日
- 4日 インフルエンザ予防接種
経営会議
防火管理者上級講習会(朝倉 ライフ)

◆明日香

- 5日 義(村木 名古屋)
- 28日 進路指導関係諸機関連携連絡会(鳥居 豊橋養護学校)
- 29日 社会福祉事業者役員特別セミナー(施設長・田中 名古屋)
- 29日 愛知県相談支援従事者研修にて講師(29日 松井伸 岡崎)
- 29日 愛知県相談支援従事者研修(西井)第2回生活上委員会(石田喜 蔵王 苑)
- 30日 夜間規定防災訓練
- 11月4日 総合的な学習の時間にて講師(田中 湖西市立岡崎小学校)
- 5日 自治会役員会
- 9日 安心貸付支援事業説明会(松井伸 市役所)
- 12日 インフルエンザ予防接種
- 13日 非常通報装置説明
- 14日 支援センター主催「在宅障害者のための料理教室」(あいつら)家族会

◆しろがね

- 5日 ぽりとよはし)
- 6日 療育支援研究会(中陳 愛知県社会福祉会)
- 6日 サポーター管理責任者研修(朝倉 名古屋)
- 12日 自閉症セミナー(村越 愛知県社会福祉会)
- 13日 相談支援従事者研修(朝倉・真鍋 名古屋)
- 13日 来訪日

◆各施設共通

- 10月17日 豊橋祭り市民総踊り参加
- 19日 施設長会議
- 22日 中部中学校福祉体験学習
- 11月2日 施設長会議
- 3日 障害者担当会議
- 5日 彦根市民生委員施設見学
- 7日 職員親睦ハレボール大会
- 10日 在宅医療福祉部会
- 11月2日 福祉村クリーン運動

さわらび会後援会寄附ご芳名

平成21年10月15日～11月14日

東京都品川区広町2-1-36	大崎第一地区民生委員協議会 会長 伊藤晃司氏	10,000円
	野依校区自治会	5,000円
市内牧野町90	小松ウメ氏	5,000円
市内東雲町47	梅村敏夫氏	16,000円
碧南市大浜上町1-36	碧南マツダ 田中梅夫氏	10,000円
市内野依町字西物草12	家具の街ヨコモクランド	10,000円
市内小池町36-1	共和印刷(株)	5,000円
市内高塚町神田68	田京敏明氏	5,000円
市内中岩田三丁目11-3	白井良治氏	1,000円
市内弥生町字西豊和9-9	林 昭氏	10,000円
市内萱町30	(株)中野新松商店	10,000円
市内瓜郷町前川50-1	鈴木弘生氏	10,000円
市内東新町314	(株)日医工新和	10,000円
市内間屋町15-5	(株)スズケン	10,000円
市内東田町154	濱竹田商店	10,000円
市内東脇三丁目1-17	森田由利子氏	10,000円
市内白河町100	中部ガス(株)	10,000円
市内神野埠頭町2	神野臨海(株)	10,000円
新城市南畑74	光田屋(株)	20,000円
市内野依町山中19-14	福祉村病院職員有志	3,000円
	さわらび会共同行事	48,446円
	匿名希望氏	30,000円
	匿名希望氏	10,000円
	匿名希望氏	10,000円
	匿名希望氏	20,000円
	匿名希望氏	20,000円
	匿名希望氏	20,000円
	匿名希望氏	10,000円

その他匿名希望多数の方よりご寄附頂きました。

計 348,446円

現在までにご寄附いただきました金額は

828,124,754円

ご寄付は、さわらび会の病院・施設なら、どこでも受け付けております。皆様の御協力をお願い致します。

みんなの力でみんなの幸せ

社会福祉法人

さわらび会後援会からの
お願い

さわらび会後援会では、広く社会の善意のある方々に後援会員になっていただき、そのあたたかい浄財をもって福祉村の建設並びに運営していくよう支援しております。

皆様方の、ご入会を心からお願い申し上げます。

後援会会長 神野信郎

●お問い合わせは 珠藻荘 ☎(0532)47-1050まで

＊お礼コーナー ありがとうございます＊

※印は豊橋善意銀行を通して

▼東京庵様 昼食招待※ (あかね荘)

インド福祉村協会寄附ご芳名

平成21年10月11日～11月10日

大阪府岸和田市小松里町947-7	小野剛賢氏	3,000円
大阪府岸和田市宮本町28-22	薬師院 阿字観教室	5,000円
名古屋市中区新栄1-7-12	東海労働金庫	3,200円
市内東高田町420	田中力氏	1,000円
市内富士見台2丁目21-6	石田敏郎氏	1,000円
市内西幸町字幸128-5	江川和郎氏	1,000円
市内多米西町2丁目2-3	河合保美氏	1,000円
市内二川町東向山49-1	黒柳晴彦氏	1,000円
静岡県浜松市北区根洗町1536-1	(株)アクティシステム	150,000円
名古屋市昭和区山花町50	医療法人 生寿会 理事長 酒井宏氏	50,000円
名古屋市北区辻町8-25	三島秀明氏	3,000円
名古屋市東区徳川2-16-43	鈴木彦一氏	5,000円
名古屋市東区東大曾根町22-24	橋口奈都子氏	1,000円
名古屋市北区東水切町1-15-6	浅田章敬氏	1,000円
名古屋市東区徳川2-15-18	柴田惇氏	10,000円
名古屋市中区大須4-6-30	杉本登氏	5,000円
名古屋市東区徳川2-15-8	堀木誠一氏	2,000円
名古屋市東区芳野1-10-16	鈴木健二氏	2,000円
名古屋市東区矢田1-13-16	亀山盛一氏	1,000円
市内野依町山中19-12	インド福祉村病院募金箱	661円
大阪府大阪市西区江戸堀2丁目6-25-1001	西典子氏	5,000円
瀬戸市八幡台3-150	服部一正氏	1,000円
尾張旭市旭台3-15-4	芝山章子氏	55,000円

計 307,861円

募金方法(インド福祉村)

- 振込先 郵便局 ゆうちょ銀行・振替口座
口座番号00830-2-65008 加入者名 インド福祉村協会
- 連絡先 軽費老人ホーム若菜荘 ☎0532-48-1138まで

オータムフェスティバル

去る10月29日(木)に第二さわらび荘にてオータムフェスティバルが行われました。今年は文化祭がインフルエンザの流行により中止となったことから、第二さわらび荘職員が披露する予定だったものを福祉村内のご利用者の皆様に楽しんでいただくことと企画しました。

始めに職員によるジャズ、歌謡ショーが行われ、メインは有志職員による勇壮なソーラン節が披露されました。短い時間ではありましたが、皆様大いに盛り上がり、ソーラン節はアンコールがおこるほど! 歌に踊りに楽しい時間を過ごすことができました。(金森)



ハッピー クリスマス



明日香自主製品
明日香にて販売中です!

充実した医療と福祉 みんなの力でみんなの幸せを

社会福祉法人 医療法人 さわらび会 理事長 山本 孝之

- 特別養護老人ホーム さわらび荘
☎(0532) 54-3501
法人本部 豊橋市浪ノ上町7-2
- 特別養護老人ホーム 第二さわらび荘
- ケアハウス カサ デ ローザ
☎(0532) 37-1209
- 軽費老人ホーム 若菜荘
☎(0532) 48-1138
- 障害者支援施設 珠藻荘
☎(0532) 47-1050
- 障害者支援施設 あかね荘
☎(0532) 48-2825
- 福祉村病院
☎(0532) 46-7511
- グループホーム白珠
☎(0532) 66-0082
- 障害福祉サービス事業所 明日香
☎(0532) 46-6579
- 福祉村障害福祉サービス事業所 しろがね
☎(0532) 48-1032
- 福祉コンビニ(東雲町)
☎(0532) 69-5666
- 第二福祉コンビニ弥生
☎(0532) 38-9090
- さわらび会障害者居宅介護事業所 田原
☎(0531) 24-0722
- 福祉村老人保健施設 ジュゲム
☎(0532) 46-7501
- 田原市障害者生活支援センター(市委託)
☎(0531) 45-3828

【表紙作品】山百合の咲く道 世古玲子(カサ・デローザ)

編集後記

今年の年の瀬は新型インフルエンザの拡大で学校が休校となったり、様々なイベントが中止になったりと何かと落ち着かない感じがしています。今月号の「さわらび」では医学講話やさわらび大学レポートそして長寿医学研究所研究通信のページで感染症やインフルエンザに関して専門的な事をもわかりやすく解説して頂いています。インフルエンザなどの感染症という恐ろしい相手に負けないためには相手の事をよく知ることが一番です。そして、豊かで楽しい生活を送るためには健康がなによりです。ぜひこの「さわらび」を参考に頂きインフルエンザなどに負けないよう楽しい年の瀬を送り、新しい新年を迎えて頂ければと思います。

(江川)

さわらび

2009年12月1日発行 早蕨 第440号 毎月1日発行
(昭和62年2月21日第三種郵便物認可)
編集責任者・江川和郎 印刷・共和印刷(株) 定価・100円